

解答

一

- 問一 出世
問二 大野
問三 ウ
問四 ガラスでできていた（こと）
問五 イ
問六 呉服屋ではくっていた。
問七 ア
問八 自分はみなし子で、雑用をして村の人々の世話になって生きているが、なんとか身を立てたいのだという（こと）
問九 ともっていた
問十 エ
問十一 ランプの便利さを知ってもらえば買い手が現れるだろう
問十二 ア
問十三 村人たちの生活をあかるくしてやろう（という思い）

二

- 問一 a 酸性 b 除〔いて〕
問二 A オ B イ
問三 イ
問四 1 食糧の新しい計画的生産方法
2 森林を伐採し畑や放牧地にした
1 ア 2 イ
問五 人類の産業
問六 1 文明の 2 エ
問七 目
問八 1 「文明の進歩」の大きな原動力
2 地球の環境破壊の元凶
問九 人類に破壊されていなかった
問十 ● 己を知り、分をわきまえる（ようになること）
問十一 ● 精神的な豊かさに重きを置ける（ようになること）
問十二 イ、ウ

三

- 問一 ① 朗 ② 往生 ③ 高〔じる〕 ④ 刷〔る〕 ⑤ 世事 ⑥ じきひつ
⑦ せいしよく
問二 ① 専用 ② 増進 ③ 地味
問三 I ④ ② II
問四 ③ ④
問五 ③ ④

解説

問八

本文の冒頭で、巳之助が「みなし子」で、「できることならなんでもして」暮らしていたが、「村の人々のお世話で生きてゆくことは、ほんとうをいえばいや」で、「身を立てるのによいきっかけがないものか」と思っていたことが紹介されています。

問十

同じ段落の中でいかに人類が地球にやさしくなかったかが述べられています。「やさしくない」とは、人類によって地球が破壊される、損なわれる、害されるという事態のことを表していると考えることができます。